

ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション

パネリスト 徳村光昭（慶應義塾大学保健管理センター）

鈴木隆雄（東京都老人総合研究所）

西川嘉輝（国土交通省公園緑地課）

コーディネーター：西野 仁（東海大学）

大会テーマ「ダウンサイジングな時代に即応するレジャー・レクリエーション」のもとに開催される本シンポジウムは、社会がこれまでの「増加」「成長」「拡大」「開発」などのキーワードがもてはやされてきた社会から一転し、「減少」「安定」「縮小」「保全」などが多用される社会へと大きく変化する中で、レジャー・レクリエーション研究はどう対応していくべきかを考える手がかりを得たいという願いから、それぞれの研究分野でご活躍中のパネリスト三氏をお招きして実施される。

慶應義塾大学保健管理センター助教授の徳村光昭氏には、「子どもの体力や生活習慣病をめぐって」お話いただく。東京都老人総合研究所副所長の鈴木隆雄氏は、「現在の日本の高齢者の健康や生活機能の実態について」科学的データから言及し、健康長寿や介護予防のポイントについても概説していただく。国土交通省都市・地域整備局公園緑地課緑地環境推進室の西川嘉輝氏には、「環境教育をはじめとする様々な市民活動の場としての公園緑地」というテーマでご提案いただく。

これらのご意見やそれを受けての活発な討論を通して、ご自分の研究が「これからの社会的ニーズにどのようにかわる研究なのか」、「研究全体を俯瞰してどの領域のどの辺りに位置するのか」などを再確認したり、「新たな研究」への着想が湧ききっかけとなるなど、シンポジウムに参加されたみなさまの今後の研究活動に何らかの寄与ができれば幸いである。

大会を前に、パネリストのみなさまから次のような発表要旨をいただいた。

子どもの体力や生活習慣病をめぐって

慶應義塾大学保健管理センター助教授 徳村光昭

1. 生活習慣病とは

わが国では、以前「成人病」と呼ばれていた高血圧、高脂血症、糖尿病などのいわゆる「生活習慣病」が増えている。生活習慣病を防ぐためには、子どもの頃から健康的な生活習慣を心がけ、高血圧、高脂血症、糖尿病などの背景となる小児肥満を予防することが必要。

2. 子供の生活習慣病

肥満児の頻度は増加し、中学生の血中コレステロールの平均値も上昇傾向にあり、高脂血症（血中コレステロール値 200mg/dl 以上）の子どもは、20 年間で約 3 倍に増加している。